

信徒伝道者養成課程

聖書の学び方 (担当: 林 正弘)

学びのガイド 2

読み方の原則

「私の目を開いてください。私が、あなたのみおしえのうちにある奇しいことに目を留めるようにしてください。」
(詩篇 119:18)

前回のプラスアルファ

- ・聖書が神のことばであるとの確信は、ひじょうに大切です。信頼なくして、みことばに従うことも伝えることもできません。
- ・さらに関心があり、入手(閲覧)可能であれば「聖書は神の言」(竿代忠一著、日本ウェスレー出版協会、1971)をお読みください。

読書：「“聖書読み”のコツ」第1章(15-26頁)

資料「聖書の学び方 01」から「聖書の学び方(A)」、「聖書の学び方(B)」
(CS講習記録第1集 63-67頁)

要点：

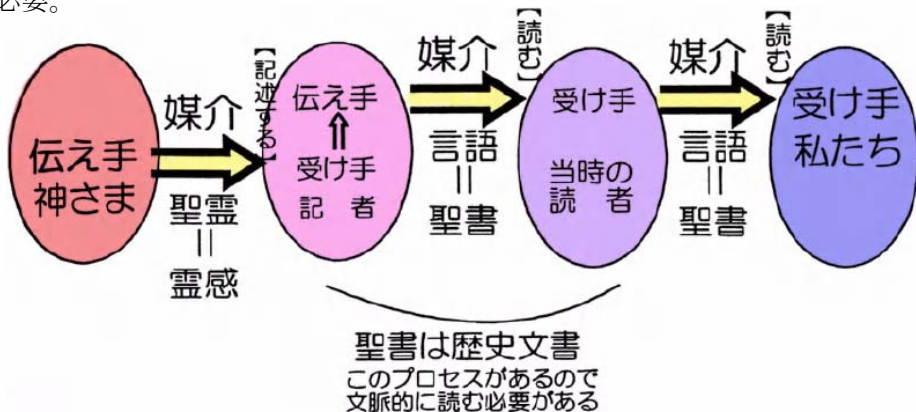
1. 聖書を正しく理解するためのポイント

- ① 素直に読む——基本的なメッセージは理解されるように記されている。
- ② 聖書全体の統一性を前提とする——著者はおひとり
- ③ 聖書は聖書によって解釈する
- ④ 前後関係・文脈を考えながら
- ⑤ 書の種類・文体・背景などをとらえて
- ⑥ 従う心をもって——聖書の権威と聖書への信頼のゆえに
- ⑦ 聖霊の助けを祈り求めつつ

1-① について

聖書は神さまから私たちへのコミュニケーションであって、理解されるように記されている。聖書には解読されるべき暗号はない。

ただし、今の私たちは、記者と当時の読者を介して、聖書を手に行っていることに注意が必要。



1-② について

記者は約 40 人で、その内訳は多岐にわたる（王、政治家、祭司、預言者、収税人、医者、漁師、等々）。しかも、記された期間は、約 1500 年間に及ぶ。

しかし、靈感を受けた書として、聖書の著者はおひとり(聖霊)であって、統一された主題の下、全体が構成されている。

聖書の主題：「イエス・キリストによる贖い（神による人類の救い）」

旧約 <39> 救い主到来の準備（模型と予言）					新約 <27> 救い主の到来（実体と成就）		
律 法	歴 史	詩 歌	大 預 言 書	小 預 言 書	歴 史	手 紙	預 言

1-③、④ について

統一性をもっている聖書は、相互に矛盾するような主張はしていない。したがって、意味が明瞭ではない箇所は、同じ題目についてより明瞭に記されている箇所によって解釈されるべきである。

また、一つの箇所は、その前後の箇所やその書全体の文脈を踏まえて解釈されるべきである。

1-⑤ について

聖書 66 巻には、さまざまな文学形式の書がある。詩歌は詩歌として、手紙は手紙として、記録文書は記録文書として、物語は物語として、教えは教えとして読み、理解する。

時代背景などの理解も助けとなる。

2. 聖書を学ぶ3つの段階

終始、まことの著者、聖霊の助けを仰ぐ。その上で、

1) 知的把握 → 歴史的意味	観察 → 何が記されているか
2) 心霊的把握 → 霊的意味	解釈 → どういう意味か
3) 実践的把握 → 現代的意味	適用 → どう生かされるか

左側の3段階と右側の3段階は、見方に多少の違いがあるが、類似しており、またそれぞれ意味がある。右は、帰納的学び方で、次に説明する

3. 帰納的な読み方

「帰納」とは、個々の特殊な事実から一般的な命題を導き出すこと

▽帰納的な学びの基本的なプロセスは、帰納的学びは、観察、解釈、適用の3つの方法で成り立っている。

- ・【観察】 そこに「何が書かれているのか」の正確な把握——この【観察】は、正確な【解釈】と、間違いのない【適用】の基礎となる。
- ・【解釈】 そこに「何が意味されているのか」の答えの理解
- ・【適用】 「その箇所が私にとってどのような意味を持つのか」「どのような真理を实践できるか」「私の人生で何をどう変えればよいのか」の答えの発見

聖書の学びの最終的な目標は、生き方が変わっていくこと、イエス・キリストと深くしっかりとした関係を築くことにある。

課題：

- ① 「聖書を正しく理解するためのポイント」のなかで、新しく気づいたことがあれば、それをお分かちください。
- ② 聖書を学ぶ3つの段階(知的、心霊的、实际的)を、「聖書の学び方(B)」と「“聖書読み”のコツ」第1章から、自分なりにまとめてみてください。

以上